

第 1 回 気候変動にともなう防災・減災を考える会 要旨

日 時：平成 23 年 12 月 6 日 10:00～12:00
場 所：鳥取河川国道事務所 1 階会議室
参加者：委員、随行者、事務局含め約 20 名

本会趣旨

近年、全国的に大規模な水災害が頻繁に発生する中で、千代川流域においても、全国的な傾向と同様に、温暖化に伴う気候変動によると考えられる集中的な降雨、潮位の上昇傾向等が見られ、今後も流域に対する水災害リスクが上昇していくことが考えられている。

こういった背景を踏まえ、気候変動にともなう水災害リスクに対する適応策(ソフト的な取り組み)について、学識経験者、地元関係者、及び関係行政機関等で考えていくことを目的として本会を設立。

今後この会で、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進していく。

第 1 回会議 議事概要

- ・ 前回会議の要旨
- ・ 東日本大震災における課題と教訓
- ・ 平成 23 年台風 12 号における関係機関の対応
- ・ モデル地区の今年度の取り組み
- ・ 今後の予定

主な意見

< 台風 12 号における鳥取県の課題について >

- ・ 佐蛇川では、堤防欠損から避難指示に至るまで 4 時間を要した。
- ・ 地元での河川の呼び名と法河川の名称が異なっていたため、情報混乱が生じた。
- ・ 情報連絡員の役割、具体的な活動内容が徹底できていなかった。
- ・ 防災関係機関同士のコミュニケーションが図られていなかった。

< 情報伝達について >

- ・ 台風 12 号の情報は、市役所等からは伝わらなかった。自分の目で確かめに行った。
- ・ インターネットで情報を収集できることは知っているが、一般の住民にはなかなか伝わらない。情報の「見える化」が必要である。
- ・ デジタルテレビの「d ボタン」の活用を検討してもらいたい。
- ・ NHK は災害報道の義務があり、災害時には待機している。情報がどのように伝わるかを整理する必要がある。
- ・ 台風 12 号では、県から 2 名の情報連絡員が市に入り、情報をもらった。

< 防災教育について >

- ・ 住民の意識向上を図る必要がある。防災学習会等を PR して沢山の住民を集める必要がある。
- ・ 鳥取大学では大学生の防災教育を始めている。リーダーを育てることにより、住民一人一人にまで浸透させる。
- ・ 防災訓練は毎年同じ人しか参加しないことが課題である。集落単位で全員参加の訓練を考えている。

- ・ 訓練に非常用持ち出し品を持ってくる人がいない。訓練で持ち出して中身を更新するなどの心構えが必要である。

< 地域防災マップについて >

- ・ マップは本日ブック形式のものを提示しているが、一枚ものについても別途作成中である。(富桑地区)
- ・ マップは見やすいように文字を減らした。地盤高図も作ろうとしていたが、途中でとり止めとなった。富桑地区のマップを見て更新の必要性を感じる。(明德地区)
- ・ 地震時の一時避難場所は集落ごとに決めている。子どもが危険箇所を調べて大人が避難経路を決めている。現在は、防犯マップの作成に取り組んでいる。松見教授の避難シミュレーション結果を受けて、いつ、どこに避難するかを再検討したい。(大正地区)
- ・ マップは各地区で記載内容が異なっている。凡例は統一した方が良いのではないか。情報を共有するために各地区が集まって勉強会を開催してはどうか。
- ・ 水災害と地震では記載内容も異なることから、水災害に関する情報を記載するように考えて欲しい。
- ・ 富桑地区のマップに避難方法のフローがあるが、マップの大きな目的は自分がどこを通過して、どこに避難するかを考えておくことである。
- ・ マップの更新は出水期前の6月くらいまでに実施して欲しい。

< 防災講演会について >

- ・ 防災講演会の後に片田教授とモデル地区代表者の座談会を開催する。
- ・ 講演会参加者は広く一般にして、大勢の人に来てもらう。

< 今後の予定について >

- ・ 次回分科会では、情報提供に関する意見交換を行う。
- ・ モデル地区における取り組みを通じ、防災意識を向上させるためのプロセスを整理し、流域全体に広げていくための意見交換を行う。

以上